

記 録 簿

事 項	第2回牧之原市学校用地候補地選定委員会（榛原地区）
日 時	令和4年9月15日（木）13:00～14:45
場 所	相良庁舎4階大会議室
出席者	別紙参照
内 容	第1回会議の内容を振り返り、意見の整理を行いつつ、ふたつの最終候補地について意見を出し合ったうえで、第3回に向けて、評価シートの項目及び評点について検討を行った。
教育長	<p>【教育長挨拶】</p> <p>前回は現地視察を経て各候補地における課題や印象について、事務局へ提出していただいた。また、第1回目において、各候補地について事務局で精査してきた経緯を説明しているが、説明不足であった部分もあったと思うため、改めて資料を用意した。併せて委員の皆様からいただいた疑問点等を整理させていただいたため、前回の振り返りを行ってから、協議に移っていただきたいと思います。</p>
佐藤委員長	<p>各候補地について、課題に思ったところをまとめていただいた。</p> <p>事務局から、振り返りも兼ねて追加で必要な情報を提供するというので、まずは学校再編計画にある目指す学校像、面積根拠について説明願います。</p>
石川	<p>【資料1「目指す学校像、学校再編計画の基本方針について」資料2「面積算定方法」資料3「候補地の考え方について（※説明文入り）」について説明】</p> <p>榛原地区候補地第2段階に絞った理由として、敷地面積が足りない、接道がない、という点など、基礎調査の結果によって絞り込んでいる。前回、絞り込みの過程について説明をしたが、実際に現地視察があったため、絞り込む過程にご意見がある場合はこの場でご意見を出してもらえればと考えている。</p>
佐藤委員長	<p>ありがとうございました。</p> <p>資料1から3について事務局より説明があった。最終候補地の絞り込まれるまでの過程について、意見、質問がある場合は発言をお願いします。</p>
	<p>最終的には2つの候補地となっているが、あまりにも事業費の差が大きい。ぐりんばるは代替地の問題があるため、最初から事業費の観点だけで財政的に不可能である、という判断がされなかったのか、また、代替地を整備しなくてもいい方法があるのか、という点について伺いたい。</p>
佐藤委員長	<p>ぐりんばるは移転も含めると、榛原中学校周辺候補地の約2倍の費用が必要である。前提として財政について何らかの考えがあったのか。事務局から説明を求める。</p>
内山部長	<p>まず、代替施設について、都市計画決定された公園であるため、必ず代替地を整備する必要がある、と担当課から聞いている。代替地を整備しなくてもいいという方法があるかどうかという点については、必ず整備しなければならないのは事実である。次にこれが財政</p>

	<p>的にどうなのか、という点については、全体的なスケジュールや整備方法まで検討することができれば、絶対に不可能ということではない。そのため、委員会で検討することなく、行政的な判断のみで、財政面を理由に候補から落とすのではなく、様々な手法があることも考慮して、検討する土台に載せたいと考えたため、今回選定の候補地として残すようにした。</p>
■■■■	<p>了解した。</p>
■■■■	<p>資料2の必要面積について、既存施設よりもグラウンドなどは狭くなっている。プールは川崎小学校と同じぐらい。学校の規模が大きくなるにもかかわらず、規模が小さくなっているのはなぜか。</p>
内山部長	<p>資料2の数字については、校地のエリア指定をした中で、最低限の面積が確保できていれば候補地足り得るという判断で候補地を選んでいく際、どのような施設が何㎡必要か、というところから算出したものである。故に、あくまでも最低限必要な面積となっており、新しい学校としてこの数字で整備するわけではない。</p>
■■■■	<p>実際の設計にあたっては、現状の小中学校より小さくなることはない、ということか。</p>
内山部長	<p>考え方として、税金を使っている以上、学校施設とはいえ過剰な施設は作るべきではない、ということは前提にあるものの、既存のぐりんぱるや榛原中学校が候補地となっている中で、最低限必要な面積以下になることはないと考える。実際の整備面積については、これから検討会などを経て決定していく。</p>
佐藤委員長	<p>榛原中学校周辺の候補地は平場面積が6万㎡ある。必要面積が3.5haに対して6.0ha確保できるという認識でよいか。</p>
石川	<p>そうである。</p>
佐藤委員長	<p>了解した。他に意見はあるか。</p>
一同	<p>異論なし。</p>
佐藤委員長	<p>では、最終候補地についての検討に移る。まず、事務局から説明を求める。</p>
石川	<p>【資料4「各候補地についての意見まとめ」資料5「各候補地の疑問・課題に対する回答」資料6「学校用地候補地状況整理シート」について説明】</p> <p>資料4については先日お願いして、委員の皆様から提出いただいた意見を候補地ごと、意見ごとまとめたもの。その意見を基に、資料6ではメリット、デメリット及び課題と考えた点について候補地ごとに整理した。資料5については、疑問や課題と感じている部分について、市の回答をまとめたものになっている。</p>

佐藤委員長

ありがとうございました。資料6の状況整理シートについて、最終的にはこちらを埋めていくことになると思う。課題が本当に解決できない課題なのか、何かしらの解決方法があるのか。委員の皆様の意見をいただきたいと思う。[ ]からお願いします。

[ ]  
ぐりんばるについて、やはり財政的に難しいと考える。現中学校は洪水災害の危険性もある。津波と豪雨災害が同時に発生するとか、万が一のことを想定すると、津波によって勝間田川の水門を閉めると、豪雨で降った雨の逃げ道がなくなり、周辺道路は一切通れなくなる。最終案からは消えたが、高台を利用することはできないのかと思った。

佐藤委員長

[ ]より、資料6で課題として考えている点について意見をいただいた。盛土によって洪水対策を行うことは課題として挙がっているが、[ ]ご意見をいただきたい。

[ ]  
皆様が心配されているのは、地盤についてと、洪水の浸水区域であることの2点だと思う。まず、市として最も心配されている津波の被害想定区域からは外れているので、その点については問題ない。河川については補足資料にもあるとおり、浸水想定区域となっている。ただし、日本の国土の限られた地形の中では、どうしても妥協をしなければならないところもあるのが事実。[ ]が、どこの候補地を選んでも何かしらの問題は出てきてしまう。その中で、[ ]からすると河川の洪水については必ず避けなければならない項目ではない、としている。洪水による浸水被害については今の技術で対応でき、安全を確保できる条件という認識であり、現にそのような場所においても建替えを行っている。

二つ目に、地盤の問題について。既存の榛原中学校の施設も見させていただいたが、地盤の良し悪しにかかわらず、50年も経過したコンクリート造の建築物には多少の傾きは発生するものである。榛原中学校の傾きについても、特段心配するような傾きでもないということも現地も確認している。また、昔よりも建物の基礎の基準も非常に厳しくなっているので、杭を施工せずに建築できる地盤というのがほとんどない。県立高校においても杭を使わずに建築できるのは6校中1校しかない。地盤というのはどこでも何かしらの課題を抱えることになるが、昔と違い、場所打ちコンクリート杭の他にも鋼管杭、PC杭など、様々な種類の杭が増え、打ち方も様々であるし、技術的に問題はなく、悪い地盤であっても安全な建物が建てられるようになってきている。要するに、施工の工夫で今心配されているような災害には十分対応できる技術があるので、その点については心配はいらないと思う。ただ、地域の人からすると、地盤の悪い土地である、という気持ちの面についてはそう簡単に変えることはできないかもしれないが、十分検討できる場所である、と考える。

内山部長

水害について補足をする。大雨による洪水については、天気予報等で事前に予測可能な災害である。翌日の雨の降り方や、通学下校時間帯の雨量等、ある程度予測できるため、事前に登校をやめるとか、早めに帰らせるなどの対応が可能である。また、過去50年の中で、今の校舎の建物まで浸水したことはない。県道側の田んぼまで浸水することはあるが、市道側まで使ったことはない、と聞いている。1000年に一度、ということがあると絶対に、とは言い切れないが、少なくともここ50年の中ではそういった事例はない。また、県の

事業であるが、勝間田川の河川改修も進んでいる最中である。気候変動による災害の激甚化も進む中あるので、そういった災害の対策のために、他の事業も進んでいるところであることは共通認識としていただければと思う。

今の内山部長と同意見である。課題シートにも記載させてもらったが、榛原中学校のグラウンドは遊水池の機能も果たしている。先日、豪雨災害のあった熊本県の人吉市に行ってきたが、勝間田川は3m、4mの洪水が起こるような地形ではない。安全性は担保できると思っている。また、今朝NHKで浸水型都市構想という特集をやっていた。東京都葛飾区の小学校は荒川、江戸川、中川、等の河川の浸水区域となっているが、海拔0mであるので、洪水が起きると浸水してしまう。だから、建物の1階を2階の高さに嵩上げする等の対策を行っている事例を紹介していた。ぐりんぱるについては、時間をかけたり施工方法を工夫したりすることによってコストの問題も検討の余地があるということだが、ぐりんぱるではなく、その分の費用を榛原中学校の整備に使ってもらえるような考え方のほうがいい。ぐりんぱるの代替地を整備するとすると、あの水はけのよさを作るのは今の想定費用だけではとてもできないと思う。

また、相良地区は原子力防災の体育館ができると聞いた。榛原地区の防災拠点となると、どこになるのか、と考えると、新しい学校の校舎が拠点施設になっていくのではないかと。その観点から、災害拠点になりうる施設として、新校舎の整備に投資するのもいいと思う。太陽光発電システムの導入によって、災害拠点として電気の部分で心配がないようにするでとるか、予算を集中してより良い施設を作るだとか、そのような意見についても検討してもらえたらと思う。それらを考慮すると、私としてはぐりんぱるよりも榛原中学校の方が、校地として適していると感じる。

佐藤委員長

ありがとうございました。候補地選定において重視したい点として、児童生徒の安全をどう守るか、というところは最も大事だと考える。ぐりんぱると榛中を比べると、立地上、ぐりんぱるは優れているが、榛原中学校についても現に中学校として利用しているし、先ほどから助言があったとおり、現状の課題については施工方法などで十分対応可能ではないかと考えている。次に、お願いします。

ぐりんぱるは費用の面を考えなければ、とてもいい候補地だと思う。榛原中学校については、初めから遊水池としての機能を持たせた上で今の中学校を作ったのだと思う。そう考えると、仁田の周辺の住宅のためにもそのままの形状である方がいい。今のグラウンドの形状を変えずに整備することができるのなら、榛原中学校を最有力候補地として問題ないのではないか。先ほど申し上げたとおり、費用の面では130億と60億という差がある。今後の市の財政のなかでどういう影響があるのか、考えていく必要があると思う。私は今の榛原中学校の場所でも安全で、教育環境上、問題があるということもないと思う。

佐藤委員長

からの発言で遊水池に関する話があった。市は新しい学校についても今と同じようにグラウンドを遊水池として使うという方針か。

内山部長

現時点ではそう考えている。遊水池としてグラウンドは機能させながら、整備を考えてい

	<p>る。現状と同じ整備となるので、地域の理解も得られると思われる。</p>
	<p>現地視察をした際、草が多く、グラウンドとして機能しているのか心配になった。そういう現状を見ると、グラウンドを遊水池として使うのは問題があるのではないか、と思う。一つの方法として、グラウンドの下に湧水タンクを埋設して、遊水池は遊水池として整備する方がいいのではないか。教育環境的にもより良いものになる。今の学校生活に支障があるところを今の学校に聞いてもらって、それを解決できるように新しい学校を整備していくのがベターではないかと思う。</p>
	<p>と同じく、グラウンドを見たときに雑草が多く、グラウンドとして機能しているのか心配である。今までは中学校だけのグラウンドでよかったが、これからは小学生の利用もある。小さい子たちが使うとなると心配。遊具が浸水すると劣化も早まる。少しの雨でも浸水してしまうのでは、毎年土を補充しなければならないなど、コストもかかる。やるかどうか別にしても、そういうグラウンドで芝生化など、土以外の整備ができるのか疑問が残る。もうひとつ、候補地③の茶畑を外したのは、急こう配で面積が取れないため候補地から外したとのことだが、高台の方をグラウンドとするのか校舎とするのか、具体的な方針はあったのか。</p>
内山部長	<p>この榛原中学校に限らず、土は浸水に関わらず入れている。毎年大雨の浸水被害で土を入れているということではない。また、遊水池と調整池は役割が異なり、大雨によって河川の水位が上がり、田んぼに水が溜まってしまい、水が吐ききれないときに保水機能のあるグラウンドとして整備されている、と認識してもらえたらと思う。</p> <p>候補地3を外した理由については校舎だけを高台に持っていけないか、と考察したが、想定よりも平場がだいぶ狭くなってしまうことが基礎調査によって判明した。造成をしても斜面が増えてしまうだけで平場がとれない上、山の水も出る場所と聞いているため、湧水対策も必要である。</p>
前田課長	<p>調整池の地下式について、市でも開発行為の認可事務を扱っている中で、民間の工場や倉庫で採用している例もある。ただし、地下に溜めた後、既存の水路にどう導くか、という問題が出てくるため、地下式を採用するには現状の地形が大きく影響する。候補地が決まってから、計画を作る中で検討していく内容かと思う。</p>
佐藤委員長	<p>防災・安全性・経済性・実現可能性を中心に話が出ていたが、アクセスや利便性の観点でご意見ないか。</p>
	<p>今の相良中学校は400人規模の学校なので、1200人規模校となると約3倍の規模になる。それだけ多くの子どもを預かる立場になるので、最も安全な場所が望ましいと思っている。経済面や利便性等、多方面の意見を聞き、確かに榛原中学校の方が、利便性、アクセスの面では優れていると思う。ただ、浸水するグラウンドの問題がやはり心配である。地震に対する安全性については、大地震が起きたとき、校舎にとどまれば安全であると、それが担保できるような校舎であれば良いと思う。榛原中学</p>

校のグラウンドの話が出ているが、昔は芝生のグラウンドであった。遊水池として使うのが、どうしても避けられないなら仕方がないと思っているが、浸水しない方法があれば、それも検討していただきたい。

ご意見を伺った中で、ぐりんばるは高台で安心というのが主なご意見だと感じた。現地を見て思ったが、とても立派な運動公園であり、地域の皆さんにもたくさん使っているとのことだった。そのようなグラウンドは、やはり市民の宝物として使っていくものだと思う。候補地としての榛原中学校は建物への期待が大きいと感じた。周辺住民の方も、災害時はそこへ逃げ込んでいけるようなものを作っていく、という方向で良いのではないかと思う。ただ、敷地はものすごく広大。大きな敷地を維持管理するのは本当に大変。県立高校と比べても広い。その一方で、広い敷地の一部を人工芝にする、小コートを作る、部分的に遊水池を残していく、などの夢が色々語れる場所でもある。浸水区域に作っている高校は、1階部分は駐輪場としてかさ上げをして、生徒たちがいるのは2階以上にいるような形にしてもらっている。様々な事例や手法があるので、ひとつずつ検討していけばいい。

アクセスの部分の話で、榛原中学校は通学路が平坦であるので負担が少ないというが、坂部地区はどちらの候補地でも山をひとつ越えてくるので、決して平坦ではない。過去に自転車と歩行者がぶつかって、死亡事故が起きたこともある。通学の面での安全性は重視したい。通学する子どもの数が増え、事故がまた起きるのではないかという心配がある。何かしら、対策を考えておく必要があると思う。申し添えておく。

佐藤委員長

に教育環境の面でお話をいただければと思う。

地元の方々の貴重な意見を聞いて大変参考になった。めざす学校像としても関連させて話が出来ればと思う。子どもたちだけでなく、地域にも愛される学校になってほしいという気持ち。候補地のぐりんばると榛中は、どちらもメリットデメリットがある。ぐりんばるは災害の面では安全であるものの、地域から独立する形になる。一方で榛原中学校は災害の面で問題があるという印象であるが、実際のところ、地盤は強固であり、水害は対策可能であるということがわかったが、心配に思う人はいるのも事実。その部分で極力リスクを減らしておく方法を考え、残ったリスクをどう減らしていくか、マイナスをゼロにするのではなく、プラスの部分はどう伸ばしていくか、という視点に立つことも大切だと考える。また、芝生化という話題も出たが、みんなの学校という観点から、芝生が必要か検討していくのもやり方の一つ。芝生管理は地元がやるのか、通学の見守り隊とか、地域のかかわり方を考える必要がある。皆さんで知恵を出しあいながら、コンセプトに合う学校にしていくことが大事だと思う。

地元の有志で集う組織が仁田と橋向にはある。勝間田川の維持管理や、榛中の草刈、芝刈、樹木の選定もしている。新しい学校においても、コーディネーターがうまく地域と学校を繋げてくれれば機能していくと思う。

佐藤委員長

これらの意見を事務局で状況整理シートをまとめて、また委員の皆様にご回答いただくよう

	<p>にしていければと思う。評価シートについて事務局から説明をお願いします。</p>
石川	<p>評価シート、資料7をご覧ください。事務局でたたき台として作ったものである。この場で議論していただき、より良い評価シートとしていただきたい。</p>
佐藤委員長	<p>最終的にこの評価シートに記入して各候補地を評価してもらうようになる。配点、項目について、ご意見等あるか。</p> <p>異議なし</p>
佐藤委員長	<p>私の意見ではあるが、基本的に防災・安全性のところは棒線にするのではなく、防災を合計で30点にさせていただき、教育環境のところ、5点と10点配分に。地域性のところで、地域との関わりの部分について、5点を10点にもらえるともバランスが良くなるかと思う。全部足すと150点になるので、いかがか。</p>
内山部長	<p>ありがとうございます。津波、あるいは土砂災害について、こちらの候補地についてはどちらも想定被害はないということになるが、よいか。</p>
佐藤委員長	<p>いいと思う。例えば、災害であれば災害に関して、該当の項目の評価を行ったということになるので、その場合は10点満点で付けてもらえたらいいと思う。</p> <p>今回はこれで議事が終了となる。ご協力ありがとうございました。</p>
市長	<p>本日はお忙しい中ありがとうございました。コンセプトはみんなの学校。通いたい、通わせたい学校にしていきたい。本日は非常に建設的なご意見をいただいた。地域との関わり、アクセス、教育面、施工面、様々なご意見をいただいた。</p> <p>横田さんからもアドバイスをいただいた。安心できたと思う。技術で解決することができるものは解決していきたい。片浜小学校、自動芝刈り機が走っていた。そういう方法もあるのだと思った。一部を芝生化するのもひとつ。これからの検討。弱みを強みに。最終的に校地を決定できれば次のステップに進むことができる。</p>
事務局	<p>次回は10月7日（金）同じ場所で同じ時間で実施予定。評価シートを修正して、ご提出いただければと思う。個々に評価していただき、まとめたものを次回提供する。</p>

以上

記 録 簿

事 項	第2回牧之原市学校用地候補地選定委員会（相良地区）
日 時	令和4年10月7日（金）15：00～16：30
場 所	相良庁舎4階大会議室
出席者	別紙参照
内 容	候補地の絞り込みの過程に関する意見があったため、選定員の意見を伺い、選定委員会としての方針を定めつつ、第1回会議の内容を振り返り、意見の整理を行った。
佐藤委員長	第2回相良地域選定委員会を開催します。情報提供を事務局よりお願いします。
石川	<p>前回の議論の中で補足が必要と思われる箇所について事務局より説明をさせていただく。</p> <p>資料1：めざす学校像</p> <p>資料2：候補地面積算定方法</p> <p>資料3：パワーポイント資料（説明入り）</p> <p>資料4：各候補地の意見集約</p> <p>資料5：疑問や課題に対する回答</p> <p>資料6：状況整理シート</p> <p>以上の資料に基づき内容を説明。</p>
佐藤委員長	<p>最終候補地3箇所についての議論を進める前に、[ ]より、い～らの南側、または北側の候補地が望ましいのではないかと、道を動かして敷地面積を広げるとか、もう一度検討することができないか、また面積が少なくても、い～ら周辺がいい、という意見があった。さらに、相良小中学校について、浸水被害の影響等を考えて盛り土して候補地にできないか、という意見があった。前回の会議を経て、各委員から提出していただいた各最終候補地についての意見のほかに、全体にかかわる意見として候補地選定に関する質問が上がった。そちらについて、事務局に対して説明を求めます。</p>
石川	<p>資料5の内容について説明を行う。</p> <p>相良小中学校はなぜ候補地に入らないのか、という設問が資料5にありましたので、併せて説明をさせていただく。まず相良小中学校は津波浸水区域内であること。次に埋蔵文化財包蔵地が現在の校舎の部分にも指定があること。さらに盛り土をすることで津波に対応する高さまで上げた場合、遊水地としての機能が失われてしまうため、周辺の住宅等への影響が大きいということ。以上の理由から候補地として適さない、という判断をした。</p>
[ ]	相良小中学校については了解したが、候補地として挙がっていたい～ら南側については、再度、候補地として検討してもらいたい。
佐藤委員長	[ ]からの提案として、い～ら南側候補地について、検討のテーブルに挙げてほしいという意見があるということによろしいか。各委員の意見を伺わせていただく。
[ ]	い～ら周辺の候補地を議論の中に戻してもらえないか、という意見が[ ]の一部の区



	<p>長から提案があったということか。候補地の条件としては、津波浸水区域以外、面積の確保、非常に大事なことだと思う。最低面積は隙間なく入れた面積となっている。当然、実際の建築ではもっと必要だと思う。資料5の9ページ、11ページで、い～ら北側は盛り土をした場合でも2.3haで面積が足りてない。い～ら西側についても河川をつけかえるという大規模な工事をやったとしても2.5haしか確保できない。最低面積が3.0haに満たない。これらの候補地が、最終候補地から外されていったのは妥当なことだと思う。</p>
佐藤委員長	<p>い～ら南側候補地については、いかがか。</p>
[REDACTED]	<p>い～ら南側については、面積が2.8haとわずかにすくないが、道を動かすとか。調整池に蓋をして駐車場にするとか。い～ら周辺はほか施設の駐車場もたくさんあるので、必要台数は確保できるのではないかと。そちらを使えばある程度、面積は確保できるのではないかとということも述べていた。</p>
[REDACTED]	<p>菅山小学校は地元からは残してほしい、ということも言われていたが、難しいと考えている。い～ら南側は、交通アクセスの部分で難しいのではないかと。体育館もできる。多目的体育館もある。公共施設が集中することになる。さらに、い～ら南側に学校ができたら避難施設としての指定もされるだろう。い～ら周辺に避難施設等が集中してしまうのはいかがなものか。それこそ無駄なのでは。交通利便性も悪い。面積も足りない。いかがなものかと考える。交通アクセスは将来的にどうなるかわからないが、現況では、スクールバスの運行も考えたら、非常に脆弱ではないかと考える。災害の緊急避難場所がこまごま一か所に集中してしまうのはよくない。もう1点、萩間や菅山から通う人もいる。スクールバスの台数も増えるだろう。そういう観点から候補地としていかがなものか、と私は思う。</p>
佐藤委員長	<p>候補地として、議論の場に載せることについて、当初、5つの候補地としてあったい～ら南側と菅山小学校も入れて、再度、5つの候補地を比較検討の対象としてこの委員会として検討するのはどうか。</p>
[REDACTED]	<p>それはいいと思う。</p>
[REDACTED]	<p>5つの中から検討するのは問題ない。い～ら南側が外れた具体的理由はどのような理由なのか。</p>
内山部長	<p>い～ら南側は、第2段階まで残っていたが、市で基礎調査を実施したところ、平場が2.8haしか確保できないため、スクールバス、駐車場の確保が難しい。さらに大規模な造成工事が必要で、70万㎡という大量の残土が発生してしまい、残土処分だけで30億以上のコストがかかってしまうということから、最終段階の候補地からは外れたということになる。市としては1回目のときに資料3で説明させていただいた。資料5は1回目でみなさんから出た意見から、疑問点が出た意見についてまとめたものである。</p>

	資料3の10スライド、赤い枠で5か所の候補地がある。この委員会で5つについて、もう一度丁寧に絞り込みを行う、ということでもいいと思う。い～らの北側、西側についてはさすがに難しいということが今回の説明でわかったので、い～ら南側、菅山小学校周辺を加えた5つの候補地で考えるということでもいいと思う。
	基本的には3haで考えないと。なぜそれ以下の面積の候補地をこの段階で候補にいったのか、というところは指摘されるのではないか。ただしその一方で、少数意見を取り入れて、再度、候補地に入れて検討する、というのは賛成です。
	基本的には5か所から選ぶということでもいいと思う。最終的には1つになる。
	資料3の11のスライドの3候補地からではなく、10のスライドの5候補地からスタートということになる。問題ない。
	同じ意見。
佐藤委員長	5つの候補地から選ぶということでご異議ないでしょうか。
各委員	異議なし
大石	5候補地の比較資料を配布し、い～ら南側、菅山小学校について説明
佐藤委員長	今までの3箇所に加えて、2箇所追加となった。これから委員の皆様には2箇所について、メリットデメリット、課題等について、ご意見を頂ければと思う。資料6にある3箇所に2箇所を追加したので、その候補地について、ご意見をいただけるか。
	個人の意見として思うのは、い～ら南側は最もコストが高く28万円/m <sup>2</sup> 。その上、不整形な土地形状。せっかく作るのなら整形地で使いやすいほうがいい。菅山小学校は、コストは安い、グラウンドの必要面積が確保できないのは決定的。体育館を再利用したらどうかという話もあるが、せっかく作るのなら新しい体育館を整備してあげたい。菅山小学校の体育館も新しいわけではないし、学校敷地が神社の参道で分断されるのは調整が難しいだろう。大沢公民館、相良総合グラウンド、大沢ICで比較すると、公民館は不整形。グラウンドは代替地整備が必要となる。以上のことから考えると、形の良さ、コストの面で大沢ICが最も望ましいのではないかと考える。
	第2段階の候補地の中で考えた場合、学校が新たにできるにあたり、地形が整形地であるほうがいいというのは確かにその通りである。交通アクセスについても考慮に入れて考えなければならない。皆さんの意見がどうなのかわからないが5つの候補地の中から、絞り込んでいくのがいいと思う。大沢ICは、市街地に近い、交通アクセスもいい。拡幅も可能。進入路も今の総合グラウンドへの道から取り付けることができれば問題ない。さらに総合グラウンドとの一体的な運用も可能。以上より、大沢ICが一番候補地として適しているの

ではないかと感じる。

い～ら南側については面積が足りない上、費用がかかる。菅山小学校については、萩間から言えば近くなるので、個人的にはいいかなと思う。ただ、総合的に考えると大沢 IC のところが最適だと考えている。

菅山小学校は、児童が駐車場を突っ切る形になるためグラウンドの位置を変えないと、教育活動上の問題が出てきてしまうかな、というのは感じる。

以前の3候補地について意見はありません。い～ら南側は面積が足りない。アクセスが悪い。山を越えていかなければならない。工事費も多くの金額がかかってしまう。菅山小学校について、市街地から遠くなってしまし、通学距離が長くなってしまし。原子力防災の整備がなされた体育館の国庫補助の話もどうなるかわからない。

大沢公民館、グラウンド、菅山小学校については、国道473号を通過して通学することになる。工場に行く人たち車両と児童との交錯の問題が出てしまし。大沢 IC は、逆に車と歩行者がはっきりしているの、通学路に関する問題ないと思し。い～ら南側については、多目的体育館を同時利用することができれば、うまく周辺施設を利用することができるのであれば、3haが足りなくても検討できるのであればいいのではないか。あおぞら保育園、須々木幼稚園も近くにある。そういうところとの連携ができるのはいいと思し。

い～ら南側は、面積面から難しいのではという印象。

菅山小学校はバス通学が一番多く、運営費がかかりそう。

今までの候補地3つのエリアはいいとして、い～ら南側は、平場面積が足りないのと、開発規模が大きくて費用がかさむ点の問題。菅山小学校について既存校地を使えるのはメリットである。道路が狭いこととかは問題として挙げられる。

内山部長

確認の意見についてお答えする。菅山小学校の地盤については、既存校舎があるところは悪い場所ではない。左側の田んぼの部分はデータがないので、調査をしてみないとわからない。い～ら南側の候補地は、着工する多目的体育館を学校体育館として使うという案については難しいと考えている。学校施設として位置付けるのが難しい。学校教育では、優先度が学校の教育活動が一番となる。しかし、この体育館は防災施設として整備したものであり、社会体育施設という位置づけであるため、新たに社会体育施設を整備する必要が出てきてしまし。そういう観点から考えると難しいという判断になる。

佐藤委員長

一通り意見を伺ったが、付け加える意見があれば、お願いします。では、今日の意見をまとめた状況整理シートを事務局で作っていただき、評価シート(点数化したもの)を次回お送りするので、宿題として記入して、次回提出していただくようになるので、事務局からの連絡をお願いします。

石川	第3回目の日程について、10月26日（水曜日）の13時30分から16時00分、第3回目の会議を開催させていただく。2時間30分の予定でお願いします。各委員には、仮にはなると思いますが、点数評価シートを送付させていただく。
佐藤委員長	以上をもちまして第2回相良地域選定委員会を閉会します。

以上